

# 第39回 日本小児皮膚科学会報告

2015. 7. 18-19 鹿児島



## ① 乾燥肌 (dry skin) でなぜ痒くなるか??

乾燥肌は干からびた田んぼと同じ。皮膚のバリア(皮膚を守っている層)が破れて、しんしゅつか滲出化した Langerhans cells(痒みを引き起こす細胞)が出てくる。対策としては、アトピー素因があれば、出生時から保湿剤を塗るのも良い。アトピー性皮膚炎の炎症のリスクが低下する。

尿素入りの保湿剤は、保湿効果が高いが、刺激効果があり、慎重に。

アレルギーの感作は経口<経皮。大学病院における紹介されるアトピー性皮膚炎の中には、保湿剤による接触皮膚炎が多く見られる。



## ② 紫外線：

百害あって一利あり(ビタミンDを作ってくれる)といわれてきたが、痒みを抑制する効果もある。一部のアトピー性皮膚炎の治療にも使われている。紫外線対策のサンスクリーンは高価なものは必要ないが、SPF15 以上、できれば 25-50 位が良い。プールでのサンスクリーンはプールを汚すものではないので、気にせず使用を。紫外線対策としては、不必要に浴びないほうがよいが、過剰に反応しないこと。ツバの広い帽子が勧められる。



## ③ レーザー治療：

年ごとに進化している。扁平母斑には効かないといわれていたが、有効なものもある。赤アザは早く治療した方が効果は高い。鼻の下の目立ついちごじょうけっかんしゅ莓状血管腫などは早めの治療を。一方、思春期までに9割方自然治癒するので、様子を見てもよい。



平井こどもクリニック 院長 平井 克明

